

令和7年度 柏市幼児教育共同実践研究 実施要項

柏っ子のみなさんは、
どんな時に言葉の伝え合いを
楽しんでいますか？



子ども達の「伝え合いを楽しむ姿」を捉えることで、
様々な力が育っていることが見えてきました！

感じる力（情緒力）
想像する力
考える力（論理的思考力）
表現する力
人とつながる力（コミュニケーション力）
友達の思いを感じる力（共感力）
協働する力
自分の世界を広げる力・・・など

また、育ちのための支援は様々であり、先生方同士の
実践の共有が大切です。**子どもも大人も伝え合いを
楽しみましょう！**



※これらの力は文部科学省の国語力の定義との重なりも見られます

令和7年度 柏市幼児教育共同実践研究 実施要項

1 趣 旨

社会環境や子どもの育ちの変化による幼児教育の今日的課題をもとに、現在の重要なテーマを設定した実践研究を教育研究所と柏市内幼稚園、認定こども園及び保育園が共同で行い、柏市の幼児教育の充実と推進及び幼児教育関係教職員の力量と専門性の向上を図る。

市内幼稚園、認定こども園及び保育園と連携した研究体制で実態調査や課題解決に向けた取り組みを進めることは、就学以降の学びの基礎づくりになり、柏市の幼児教育の充実と推進につながるものとする。

2 研究組織

共同実践研究推進委員会

○幼児教育に関する「共同実践研究」の推進役として、研究テーマに関する情報収集、研究目標の設定、研究方法や内容等の計画を行う。また、研修会や報告会等の開催、資料の発行等を行う。

《委員構成》

委員長	柏市立教育研究所長
委員	柏市私立幼稚園協会
	柏市認定こども園協議会
	柏市私立認可保育園協議会
	柏市立保育園
	柏市立教育研究所
顧問	聖徳大学教授

各園

○「共同実践研究推進委員会」で協議したことをもとに、各園において共同実践研究を推進する。

3 研究テーマ

「伝え合いを楽しむ子を育てる」 ～言葉による伝え合いを通して～

(1) テーマ設定の理由

①「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」より

幼児は、日常生活に必要な言葉を、身近な人との関わりの中で獲得していく。しかし、少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化の進行、共働き家庭の増加等を背景に、子どもの育ちに関わる社会の状況について様々な課題が拡大、顕在化してきている。

こうした状況を踏まえ、平成29年に「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」が同時に改訂・改定された。今回の改訂・改定では、幼児教育に関わる側面に関して整合性が図られ、育みたい資質・能力が三つの柱で明確化され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目が示された。各総則等においては、言語に関する能力の発達と思考力等の発達が関連していることを踏まえ、園生活全体を通して、子どもの発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図ることが求められている。

②調査結果より

平成30年に市内幼稚園・認定こども園・保育園を対象に実態調査を実施した。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに各園で特に子どもたちの課題だと感じていることを調査したところ、「言葉による伝え合い」をあげる園が最も多かった。友達との関わりの中で、自分の思いを伝えたり、コミュニケーションをとったりすることに課題があり、「言葉による伝え合い」は、幼児教育に携わる者にとって大きな関心の対象となっている。

③育ちの連続性の視点より

教育要領・指針等で明示された3つの資質・能力は小学校以上の学習指導要領でも示され、幼児児童生徒に対する一貫性のある教育を相互に連携し協力し合って推進するという新たな発想や取組みが期待されている。また、言語能力の向上は、児童の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められている。

小学校においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が行われている。小学校においても自分の思いを伝えたり、コミュニケーションをとったりすることに課題があり、その土台となる「言葉による伝え合い」を幼児期から育てていくことが重要であると言える。

さらに、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」（令和4年3月31日 / 文部科学省）が策定された。幼児期から児童期の発達を見通しつつ、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、教育課程や教育方法の充実・改善がより一層求められているところである。以上のことを踏まえて、本テーマを設定した。

(2) 目指す子どもの姿

言葉で表現するからこそ伝わる喜びを感じながら、言葉を介して人とのつながりを深め、自分の世界を広げていこうとする子

※こちらの姿は、5歳児後半に目指したい子どもの姿です。

※幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい援助の在り方を見いだしていきましょう。

4 研究目標

<子どもの育ち>

遊びや生活の中で、言葉や思いが伝わる喜びを感じながら、人とのつながりを深めたり、自分の世界を広げたりしていこうとする子の姿を各園で見取り、育ちにに応じた援助や手立ての工夫を行うことを目指す。

<保育者の資質向上>

伝え合う喜びを感じながら、<子どもの育ち>を語り合うことを通して、子どもの発達と学びの連続性を踏まえ、子ども一人ひとりの表現を受け止め、言葉や思いをつなぎ広げていく援助の在り方を見だし、保育の質の向上を図る。

【研究の手立て】

研究内容	語り合う視点
目指す子どもの姿を語り合う	<ul style="list-style-type: none">・現在、どのような「伝え合う姿」が見られるか。・「伝え合いを楽しむ子」の具体的な姿はどのような姿か、どのような過程を経て育っていくか。・「伝え合いを楽しむ子」は、幼児期の終わりには具体的にどのような姿として表れるか。
参観した子どもの姿を語り合う	<ul style="list-style-type: none">・子どもが遊びの中でどのような「伝え合い」をしようとする姿を見せているか。・言葉による伝え合いを子どもが楽しむために、環境の構成や保育者の援助をどのように行っていたか。
実践を振り返り語り合う	<ul style="list-style-type: none">・子どもが「伝え合い」をしようとしたことで、どのように遊びが広がったり、深まったりしたか。・言葉による伝え合いを子どもが楽しむために、効果的な環境の構成や保育者の援助はどのようなものか。さらにどのように工夫していくか。 ※別紙1「言葉の伝え合いエピソードシート」の活用（任意）
教育課程・長期的な指導計画を語り合う	<ul style="list-style-type: none">・伝え合いを楽しむ子を育てるために、1年間（架け橋期は2年間）を見通して、どのような教育課程・長期的な指導計画になっているか、さらにどのように改善していくか。・「伝え合いを楽しむ子」は、小学校以降の学習とどのように関連しているか。 ※別紙2「言葉の伝え合いロングエピソードシート」の活用（任意）

5 研究方法

(1) 全体活動

5月7日(水)
14:40～16:30
沼南庁舎大会議室
集合またはWEB
対象：各園1名

6～11月

12日(水)
幼保こ小北部地区
東部地区
13日(木)
幼保こ小南部地区
中部地区

11月12日(水)
13日(木)
13:20～15:00
沼南庁舎大会議室
対象：各園1名,
市内各小学校の
幼保こ小担当1名

(2) 推進委員会

○説明会及び研修会 ⇒ 目指す子どもの姿を語り合う
説明：「共同実践研究全体計画（取組内容）等の説明」
演習：「前年度のエピソードシート事例から幼児が言葉で伝え合う喜びを味わえるようになるための援助の在り方を考える（仮）」
講評：講師 聖徳大学 教授 河合 優子 先生

○各園での実践 ⇒ 園内で語り合う
※シートの活用（任意）

【手立ての例】

要領・指針解説「言葉による伝え合い」等より

- ・領域「言葉」のみだけでなく、要領・指針に基づく活動全体を通して育む
- ・気軽に言葉を交わすことのできる雰囲気・関係づくり
- ・様々な言葉に出会う機会をつくる
- ・伝えたいような体験ができるようにする
- ・気持ちや行動を理解したいなどの必要性を感じられるようにする
- ・自分の言葉で経験や考えを話し出す場面を意図的につくる
- ・個の育ちや状況に応じた援助、働きかけをする
- ・身近なモデルとしての保育者の役割を研修で深める

○相互参観や交流会（幼保こ小連絡協議会と連動）
⇒ 参観した子どもの姿を語り合う
⇒ 教育課程・長期的な指導計画を語り合う

○実践報告会での協議（小学校スタートカリキュラム研修と合同）
方法：小学校区ごとのグループ協議で実践を報告し合う
1園1実践持ち寄り他園とのエピソードシートの共有
(各園の報告時間は3分間・シートの持参については任意)
⇒ 実践を振り返り語り合う
⇒ 教育課程・長期的な指導計画を語り合う

※1実践だけでなく、複数の実践を持ってくる事が可能でしたらお願いします。

※報告会后に、希望者は小学校スタートカリキュラム研修にそのままご参加いただけます。

回	期日	内 容
1	5月 7日(水)	・今年度計画の円滑な推進に向けて
2	11月12日(水) または13日(木)	・実践報告会の見学
3	1月14日(水)	・報告会の分析、次年度に向けての検討、要項の見直し

グループ協議の進め方

(1人15分ずつ×3人の実践について語り合う場合)



(1) 1人目が伝え合いエピソードを語る(3分)

【エピソードシートに沿って】

① 時期② 場面③ 伝え合いエピソード④ 保育者の援助⑤ 捉えた姿

(2) エピソードから継続して育てていくとよさそうな
子どもの姿を確認する(2分)

(3) 各自考えたことを付箋に書きながら語り合う(10分)

【3つの視点で】

* 子どものどのような力が育とうとしているのか 【ピンク付箋】

* どのように関わるとよいか 【きいろ付箋】

* 今後の園生活においてこんな成長につながるのではないか

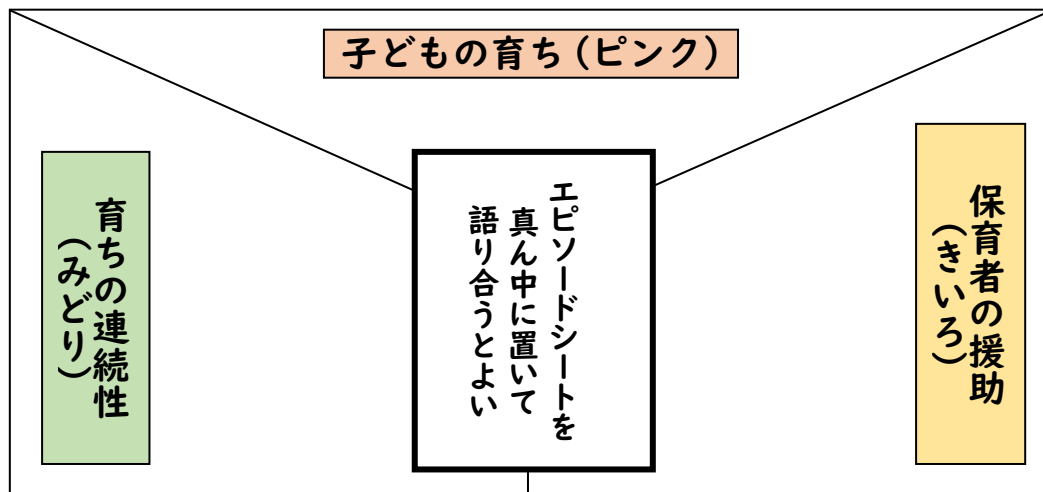
【みどり付箋】

(このような姿はこれまでの園生活とどのようにつながっているのか)

【大事にしたいこと】

子どもの育っている姿を捉えて発達を語り合いましょう！

(4) 2人目・3人目も(1)～(3)を繰り返す



令和 年度 () 園 言葉の伝え合いエピソード

○どんなことをするの?.....

- ① 一日を振り返り、印象に残っている場面の記録を書いてみましょう。写真を撮って振り返るのも効果的です。
- ② エピソード記録や写真をもとに、保育者の援助について振り返りましょう。明日の保育につながるような気付きや改善点を考えてみましょう。
- ③ 最後に育っている子どもの姿を捉えてみましょう。そうすることで、援助の価値を見いだしたり、さらなる援助の工夫に結びついたりします。

時 期	[] 歳児 [] 月 [] 日		
場 面			
<p>〈エピソード記録を書く〉</p> <p>※子どもや保育者の姿を書く</p> <p>※子どもの「伝え合いを楽しんでいる様子」に下線を引く (または、子どもの発達に応じて、この姿につながっていくと思う姿に下線を引く)</p>	<p>〈保育者の援助を書く〉</p> <p>※子どもが言葉の伝え合いを楽しむための「環境構成」や「援助の在り方」を中心に書く</p> <p>※援助をしたことによる子どもの変容や改善点を考える</p>	<p>〈捉えた姿を書く〉</p> <p>※育っている子どもの姿について書く</p>	

※提出は不要です。報告会の前の事例を整理する際、または園内研修にご活用ください。

令和 年度 () 園 言葉の伝え合いロングエピソード

○どんなことをするの?・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

一日に限らず継続的に「伝え合いを楽しむ子どもの姿」が見られた際には、こちらのシートを使ってみましょう。

または、保育参観等で見られた「子どもの伝え合い」の様子をきっかけに、長期的な子どもの姿について見通してみましよう。園内の先生、または他園や小学校の先生と一緒に見通してみると効果的です。

そうすることで、援助の価値を見いだしたり、新たな援助の工夫に結び付いたり、さらには、協働して子どもを育てようとする機運の醸成につながったりします。

	〈活動・活動例を書く〉 ※子どもの姿や保育者の姿を簡単に書く ※「」の中には、活動名（活動の場面）を書く	〈保育者・教育者の援助を書く〉 ※子どもが言葉の伝え合いを楽しむための「環境構成」や「援助の在り方」を中心に書く	〈捉えた姿を書く〉 ※育てている子どもの姿、または育てほしい子どもの姿について書く
才 月	「 」		
才 月	「 」		
才 月	「 」		
才 月	「 」		

※提出は不要です。実践報告会、園内研修、幼保こ小協議会等にご活用ください。

グループ協議シート

※実際は A3 の紙を 2 枚並べたくらいの大きさがよいです。

子どもの育ち
(ピンク)

育ちの連続性
(みどり)

保育者の援助
(きいろ)

「自分では気付かなかつた視点から子どもの育ちを捉えることができる」
(参加者感想より)

伝え合いを楽しむ子を育てる ～言葉による伝え合いを通して～

言葉で表現するからこそ伝わる喜びを感じながら、言葉を介して人とのつながりを深め、自分の世界を広げていこうとする子

<共同実践研究の目的>

- 柏市の幼児教育の推進
- 幼児教育関係教職員の力量と専門性の向上
- 架け橋期教育の充実

言葉による伝え合いを軸に幼保こ小での共有



- ・育っている (育ってほしい) 子どもの姿
- ・環境構成の工夫
- ・援助の在り方
- ・育ちの連続性 等

教育課程・長期的な指導計画を語り合う

11月
(小学校スタートカリキュラム研修会との合同)
幼児教育共同実践報告会

実践を振り返り語り合う

相互参観
交流会

参観した
子どもの姿を
語り合う

目指す
子どもの姿を
語り合う

5月
説明会・研修会

言葉による伝え合い
各園での実践

「日頃から子どもの声を拾いたい」「一人一人の思いを認め、自信につながる保育をしたい」
(参加者感想より)

園内研修で語り合う

目指す子どもの姿 活動中の子どもの姿 実践の振り返り 教育課程指導計画

- ・雰囲気、関係づくり
- ・言葉に出会う機会
- ・伝えたいような体験
- ・相手を理解する必要性
- ・育ちや状況に応じた援助
- ・場面の設定
- ・身近なモデルとしての保育者の役割
- 等

<背景>

教育要領や保育指針 子どもの実態 育ちの連続性